

## 領域「表現」に関する指導の実践的研究

市橋佳明<sup>1)</sup>・八桁 健<sup>1)</sup>

### A Practical Study of the Teaching 'Expression' in Aspects of Child's Development

Yoshiaki ICHIHASHI and Ken YAGETA

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領が改正され、平成30年から適用されている。この中では、生きる力の基礎を育成するための育みたい資質・能力を「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」として記述されている。また、豊かな感性と表現では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として、「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。」という具体的な姿が示されている。

このことを踏まえ、領域「表現」では、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることをねらいとして指導する必要がある。このことは、いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむという指導を大切にすることである。

本研究では、子どもたち一人一人の様々な自己表現を受容し、一人一人の意欲を大切にしたい指導をしていくことを大切にしながら、領域「表現」の造形表現、音楽表現などにおける指導の具体的な展開例、指導者の指導・助言および支援、問題点、改善点、効果的な指導方法などについて検証した。

キーワード：領域「表現」、豊かな感性、造形表現、音楽表現、身体表現

#### はじめに

平成29年3月31日付で厚生労働省(2017)「保育所保育指針」、文部科学省(2017)「幼稚園教育要領」、内閣府、文部科学省、厚生労働省(2017)「幼保連携認定こども園教育・保育要領」が改正され、平成30年4月1日から適用されている。この中では生きる力の基礎を育成するため、「育みたい資質・能力」について次のように記述されている。

- (1) 豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- (2) 気づいたことや、できるようになったことな

どを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

- (3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」  
このような資質・能力を育成するために、私たち指導者は、ねらいや内容に基づいた活動全体を考え、実践していかなければならない。

この研究実践を進めるに当たっては、心身の健康に関する領域「健康」、人とのかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」、感性

1) 教育学部子ども教育学科

と表現に関する領域「表現」の各領域で指導すべき事項を踏まえながら、特に感性と表現に関する領域「表現」に焦点化して研究実践した。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、豊かな感性と表現では「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。」という具体的な姿が示されている。私たち指導者は、実践を進める上で、幼児のこのような具体的な姿をイメージし、心に留めて指導していかなければならない。

このことを踏まえ、領域「表現」では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」ことをねらいとして指導する必要がある。このことはすなわち、いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむことをねらいとしている。

このようなねがいを達成するため、具体的な内容として次のように示されている。

- ・生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- ・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- ・かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

前述した内容からは、子どもたちが自由にかいたり、つくったり、あるいは、歌を歌ったり、踊ったり、簡単なリズム楽器を弾いたりして、いろいろな

表現に親しんだり楽しんだりすることも大切であるが、さらに、それらの造形表現、音楽表現、身体表現活動を通して、子どもたちが素直に自己表現できるように指導の配慮をしていかなければならないことが分かる。

## 1 研究の目的

幼稚園や保育所での活動をイメージした時、子どもたちが、みんなと一緒にかいたり、つくったり、あるいは歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を弾いたりしながら、造形表現、音楽表現、身体表現活動を楽しんでいる情景が目につく。これは、子どもたちが、自己表現する手段として自然な姿であり、指導者は、これらの表現活動によって、子どもたちの豊かな感性が養われ、磨かれるものと自覚して指導に当たりたい。

実際に、子どもたち一人一人の自己表現は、様々な様相で行われることが多く、指導者はそのような様々な表現を受容し、一人一人が表現しようとしている意欲を大切にしたい指導をしていかなければならない。そのためには、指導者は子どもたち一人一人の表現をよく見つめ、その様相にあった指導をしたり配慮をしたりして、子どもたちが自己表現活動を楽しむことができるように工夫していく必要がある。

そのため、保育者をめざす学生たちに、具体的な教育現場を想定した授業を展開し、領域「表現」の造形表現、音楽表現活動などにおける指導の具体的展開例、指導者の指導・助言および支援、問題点、改善点、効果的な指導方法などについて考え実践研究し、検証していきたい。

## 2 方法

指導者をめざす学生を対象として、造形表現、音楽表現などの活動の効果的な指導方法の在り方について研究実践し考察した。

### (1) 対象者

- ・本学教育学部子ども教育学科3年生で、「保育内容演習VI B（造形表現）」の授業を受講している54名。
- ・本学教育学部子ども教育学科1年生で、「保育内容（音楽表現）I」の授業を受講している73名。

(2) 期間

平成30年4月～8月

(3) 研究の方法

「保育内容演習ⅥB（造形表現）」の授業内で行った模擬保育に関して、学生が立案した保育指導案、実践、レポートによる省察、及び子ども役を担当した学生のコメントカードから、その実践効果を探った。また、「保育内容（音楽表現）Ⅰ」の授業内で行った音楽における身体表現、自然の中にある音の気付きと表現、リズム楽器を使った音楽表現の実践について、学生の意見やレポートの記述、音楽表現の中身から実践効果を探った。

(4) 研究の内容

①造形表現

- ・模擬保育（音から広がる行為と表現）

「マラカスを作って演奏しよう」

「水で演奏しよう」

実践した模擬保育の中で、特に上記の音楽分野と関わりの強い題材をピックアップし、実践効果を考察した。

②音楽表現

- ・音楽における身体表現
- ・自然の中にある「音」の気付きと表現
- ・リズム楽器を使った音楽表現

保育内容（音楽表現）で実践した中で、上記の3点について実践効果を考察した。

### 3 領域「表現」指導の具体的実践

(1) 造形表現の具体的実践

はじめに、造形表現の実践研究について、平成30年度前期に行った「保育内容演習ⅥB（造形表現）」の授業記録から具体的実践を記述し考察したい。まず、本授業は次のような目標・概要・計画を設定し進めた。

【本授業の到達目標】

幼児にとっての造形表現の意義や役割を理解し、創造的な造形表現の指導がおこなえるようにする。造形表現の実技体験をもとにして幼児の造形の指導力を高める。

【本授業の概要】

指導者としての実践的指導力を養うために、幼児の造形表現の特徴や発達、材料・用具・場所の工夫、教材事例やカリキュラム、支援や評価の方法等に関する理解を深める。また、幼児にとっての造形表現の意義や役割を考えながら、実技体験をおこなう（情報機器及び教材の活用を含む）。「親子ふれあいフェスタ」では、参加する幼児の実際の反応をみて学び、実践力を高める。

【本授業の計画（演習部分の抜粋）】

- ・「親子ふれあいフェスタ」造形ブースの企画
- ・指導案の添削
- ・模擬保育①（描画材から広がる行為と表現）
- ・模擬保育②（紙から広がる行為と表現）
- ・模擬保育③（粘土から広がる行為と表現）
- ・模擬保育④（自然素材から広がる行為と表現）
- ・模擬保育⑤（身近な材料から広がる行為と表現）
- ・模擬保育⑥（身体から広がる行為と表現）
- ・模擬保育⑦（音から広がる行為と表現）
- ・「親子ふれあいフェスタ」造形ブースの準備
- ・模擬保育⑧（言葉から広がる行為と表現）
- ・模擬保育と「親子ふれあいフェスタ」の振り返り

このように、本授業では造形表現について様々な種類の模擬保育を設定し実践を行った。実践に当たっては3～4人のグループごとに指導案を立て、指導案の添削、模擬保育の実施、振り返り、「親子ふれあいフェスタ」への活動の応用という流れで実践を展開させた。

また、模擬保育については次のような条件を設定し、加えて、具体的な題材設定には下記に挙げる「題材選びの[か・き・く・け・こ]」を意識するよう指導した。

- ・模擬保育題材は、これまでの授業（他講義を含む）で行っていないものにする（一部分重なるのはOK）。
- ・模擬保育は、幼保小連携を見据えて、保育園～幼稚園～小学校低学年まで間で題材を設定する。（但し、小学校の場合は小学校用の学習指導案で書く）
- ・屋外の活動の場合は、雨の日バージョンも考える。
- ・模擬保育は後片付け、展示、作品返却等まで考える。

【題材選びの [か・き・く・け・こ]】

- か = 感性を刺激する題材
- き = 興味関心に合った(子どもの生活をつかむ)題材
- く = 工夫を広げる(豊かな広がり期待できる)題材
- け = 経験と結び付く題材
- こ = 個性やオリジナリティーを発揮できる題材

① 模擬保育実践1 「マラカスを作って演奏しよう」

ここからは実践記録を見てゆく。1つ目の実践はペットボトルでマラカスを制作し、それを楽器に皆で演奏を行うものである。完成作品と指導案は次の通りである。



図1 完成したペットボトルマラカス

実践終了後、指導者役の学生のレポートからは次のような省察が見られた。

- ・ 模擬演習を行って、みんなで楽しくマラカスを鳴らせたので良かった。しかし時間配分がうまくできず歌いながら鳴らす活動が速いペースになってしまったので今後は時間配分も課題としていきたい。
- ・ 実習終わりで子どもに説明する感覚がつかめて説明がしやすかった。
- ・ 指導案の内容が全体に伝わりきっていなかったり、作り方が指導者内で違ったりと話し合いが足りなかった部分が目立った。現場に出たときにはこのようなことがないように気を付けたい。
- ・ 指導案通りに進めることができなかったので、もっと計画通りにできるようにしたい。マラカスを作り、音楽に触れていく流れであったが、みんな楽しんでくれたのでよかった。みんなと作品を見せ合ったりしてみんなと交流する機会も設けることができ、よかった。

保育指導案

7月6日(金)	メンバー	■■■■
題材と対象年次(年齢)	3歳児 パペットボトルとビーズでマラカス作り	
園(大学)側の準備物【量】		
・ビーズ(ビーズ)	・ビーズ(油性) 各グループ(12名)計100個	
・飾	・予備のペットボトル(50程度)	
・カラーテープ(赤・青・黄・緑)		
事前に購入するもの【量・概算】	ビーズ 飾	
子ども(大学生)の持ち物【量】	ペットボトル(1人1個) 大きき自由	
ねらいと内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物の作りかたの使いかたから、音楽の楽しさを体験する。</li> <li>・色んなビーズ、テープを使い、自分だけのマラカスを作る。</li> <li>・新しい楽器を知り、友達や保護者と一緒に歌いながら音を鳴らす。</li> </ul>	
環境構成(図示) <保育演習室>		
時間	予想される子どもの姿・保育者の援助・配慮事項等	
0分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習室に移動する</li> <li>・2列に並ぶ。手を繋いで移動する。</li> <li>・練習室に着き、席に座る。...</li> </ul>	
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山の音楽家が演奏する</li> <li>・歌いながらマラカスに反対し、「見たことない」と発言する。</li> <li>・「マラカス」という名前を伝え、子どもたちが興味を持って活動に取り組むようにする。</li> </ul>	

時間	予想される子どもの姿・保育者の援助・配慮事項等	
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが音を鳴らすことに興味を持つようになり、楽器作りを始める。</li> <li>・説明を聞いてから作り始める。...</li> <li>・保育者の作るものをみて、マラカス作りの仕方が違う、作りたいと伝えている。</li> <li>・子どもたちが席に着いたことを確認し、材料を配る。</li> <li>・「どの音が鳴るかな?」や「綺麗な色だね!」等声をかけ、作る楽しさを伝える。...</li> <li>・グループの友達と音を合わせながら鳴らす。...</li> <li>・「さあ、と保育者に伝えている子がいる。</li> <li>・全員が完成する。</li> <li>・席をとり、自分のマラカスを探りながら楽しく歌う(歌:山の音楽家)</li> <li>・保育者の話を聞く。</li> <li>・保育者の話聞いたり感想を言う。</li> </ul>	
30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが音を鳴らすことに興味を持つようになり、楽器作りを始める。</li> <li>・説明を聞いてから作り始める。...</li> <li>・保育者の作るものをみて、マラカス作りの仕方が違う、作りたいと伝えている。</li> <li>・子どもたちが席に着いたことを確認し、材料を配る。</li> <li>・「どの音が鳴るかな?」や「綺麗な色だね!」等声をかけ、作る楽しさを伝える。...</li> <li>・グループの友達と音を合わせながら鳴らす。...</li> <li>・「さあ、と保育者に伝えている子がいる。</li> <li>・全員が完成する。</li> <li>・席をとり、自分のマラカスを探りながら楽しく歌う(歌:山の音楽家)</li> <li>・保育者の話を聞く。</li> <li>・保育者の話聞いたり感想を言う。</li> </ul>	

図2 「マラカスを作って演奏しよう」の保育指導案

また、子ども役の学生のコメントカードからは次のような省察が見られた。

- ・ビーズの量によって音の高さ、低さが違っていたので色んな子のマラカスを鳴らして楽しめた。
- ・ビーズは大きさが違うだけで振った時の音が変わったので面白かった。また、ペットボトルの素材によっても音が変わっていたので、いろんなペットボトルを使ってマラカスを作ると違った音が楽しめると思った。
- ・マラカスを作った後に歌を歌うという活動の流れがあつてよいと思った。
- ・音楽と合わせることは、子どもたちにとって作った先の楽しみがあると思ったのでとても良い活動だった。
- ・自分の作ったものを使って、音楽に触れたり、表現の幅を広げたりできるので良いのではないかと考えた。

②模擬保育実践2「水で演奏しよう」

2つ目に挙げる実践は、身近な容器に水を注ぎ楽器にするものである。活動写真と指導案は次の通りである。



図3 水の量を変えて作ったガラス瓶楽器

「水で演奏しよう」の実践は、幼小連携を見据え、小学校低学年向けの模擬授業を実践した。指導者役の学生のレポートからは次のような省察が見られた。まず、第3回(4/20)授業での指導案添削に関する記述は次の通りである。

- ・3回目の授業では模擬授業を行うためにグループごとで分かれて計画をすることで、コミュニケー

第2学年 1組 図画工作科 学習指導案

日時 平成 30年7月6日 第3校時(13:20~14:50)  
場所 K2105 図画工作室  
授業者 [REDACTED]  
指導教員 八折健

1 単元名  
水で演奏しよう

2 単元目標、評価基準  
水の量により音の高さが変わることに基づき、その変化を自分で作ることができる。  
(1)水の量により、音がどのように音に変化するかを進んで調べ、それを楽しもうとする。【関心・意欲・態度】  
(2)身近な素材から音楽を奏でられることに気づき、音階を作り、演奏をすることができる。また、演奏する音楽に合わせた飾りを工夫することができる。【思考・表現・判断・技能】  
(3)水の量により音の変化があることを理解する。【知識・理解】

3 単元の構想  
(1) 児童観  
鍵盤ハーモニカを音楽の授業で行った。このことにより、音階に興味をもつ児童が多くいた。そのため、文化祭で音楽を取り扱ったことをしたい児童が多く見られた。  
(2) 教材観  
本題材は身近なものである水で音楽を奏でることを目的としている。そのため、音楽や生活の他教科との関連が必要不可欠である。特に音楽の音階はまだ児童に馴染みがないものであるため、感覚で掴めるように色々な音に触れることを重視したい。また、演奏する「かえるのうた」にあった装飾を児童一人一人が主体的に考え制作できるよう、色々な材料を用意する。  
(3) 指導観  
本単元は学習指導要領図画工作編第3章第1節1(2)イを受けて設定した。音階を聞いたり、音楽として聞いたりした時自分が感じたように表すことを大切にしたい。1つの楽曲を元にしたようにするとその楽曲を奏でられるかを音の高低に気をつけるようにする。ただ、音階にこだわり過ぎず児童が思った音を優先し前後で音の高低が合っているかなどを指導する。また、装飾も児童全員で1つの作品を作ることを意識できるようにする。

4 単元の流れ(本時 2 / 9 時間)  
第1次 身近な音を奏でよう(本時2/3限) 中部学院大学

第2次 水で音を作ろう(3限)  
第3次 飾ってみよう(2限)  
第4次 演奏しよう(1限)  
5 本時の指導  
(1) 本時の目標  
(2) 水で音を作る活動を通して、水でも音楽を奏でることを知り、分量の変化により音階を作れることを知ることができる。  
(3) 準備  
・学校(大学)側の準備物【量】  
紙コップ 25個  
ガラスのコップ 25個  
鉄のコップ 25個  
空き瓶(形の指定無し) 25個  
水道水(水道からのため量は不明)  
水を入れるはかり 25個  
割り箸 25組  
名前が書けるようなシールまたはテープ 8個  
マレット(できたら) 25個  
・児童(大学生)の持ち物【量】  
必要でなくなったペンなどバチにしたら面白いと思うもの 指定無し  
水を入れて叩いたら面白いと思うもの 指定無し  
(3) 本時の流れ

時	学習活動	教師支援と手立て・評価
0分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の身近な物を使って音を奏でたことについて振り返る。</li> <li>・紙をくしゃくしゃにした音が面白い。</li> <li>・水を振る音がきれい。</li> <li>・黒板でチョークが擦れる音が嫌だ。</li> <li>・コップに水を入れた物の音を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の感想を引き出せるよう前回の内容(机や黒板など教室にあるもの)をこすったり、叩いたりする活動)に関わることを実践する。</li> <li>・水に関わる意見を引き出すことで、本時の授業に繋げる。</li> </ul> <p>同じ大きさのコップに水の量を2割のもの、9割のものを用意し同じ割り箸で叩く。</p> <p>・小さいコップと大きいコップを用意し水を5割入れ、同じ割り箸で叩く。</p>

図4 「水で演奏しよう」の学習指導案

10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンの取り扱い説明を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の2つの例示を行うことで、児童の興味を引き出す。</li> <li>・ピンは落としたり、投げたりしたりすと危ないということを児童が把握し取り扱いに気をつけられるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>水を使って音楽を作ろう。</li> </ul>	
40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の時間に作ってお気に入りの音を交流することの説明を聞く。</li> <li>・班に使用する物を配布し、自分達が使用するものに、印をつける。</li> <li>・班ごとに色々試しながら音をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の時間があることを知り、より自分の好きな音を見つげたいと意欲に繋がられるようにする。</li> <li>・紙コップなどペンで書けるものには班名を書き、書いても消えてしまうものにはシールを貼る。</li> <li>・どの班がどのような音を作っているか、どんな音を作っているか調べたり、記録したり、机間指導する。</li> <li>・困っている班、児童のしたいことができるように手助けする。</li> <li>・きりの良い所で片付けを始められるよう声を掛ける。</li> <li>・周りを掃除する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けをする。</li> </ul>	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで音の変化を調べることができる。</li> <li>・水の量と音の変化の関係が分かる。</li> <li>・自分の好きな音を見つけれ。</li> </ul>

図4 「水で演奏しよう」の学習指導案(つづき)

ションをとりながら仲間と連携する力が身に付くと感じた。

- ・他のグループの指導案を添削し、環境構成や教師の援助など、足りないところを補って自分たちの指導案の足りないところに気づき勉強になった。
- ・自分たちでは気づかなかった点を指摘してもらうことにより、模擬授業の教材を深めることができた。

次に、第11回(7/6)授業での模擬保育の場面に関しての記述は次の通りである。

- ・児童がもってきた廃材に水を入れて音を作り、水の量によって音が変わることに導入で気づかせ、グループごとに工夫しながら思い思いに音作りができるように机間指導しながら助言することができた。
- ・様々な素材でできた入れ物を準備したが、もう少しワイングラスなど面白くて鳴らしたくなる音がでるものがあればもっと子どもも興味をもってやってくれるのかなと思った。さらに水に色を付けることによって見栄えもよくなり、よかったと思う。
- ・水を使った音を創る活動。素材によって音がこもったり、響いたりすることに自然と気づける題材だった。しかし、もっと器の種類を用意することで活動豊かにし、時間いっぱい楽しめるように配慮すべきだった。

また、子ども役の学生のコメントカードからは次のような省察が見られた。

- ・素材が違うことで鳴る音が全く別物になるので、子どもからしても、もっと他のものを使ったらどんな音が鳴るのかって興味関心を持つことができると思った。
- ・音を鳴らすのが普段あまりしないので、簡単に音を出すことができるんだと思える活動でよかった。
- ・自分を楽器にして楽しかった。
- ・響く感じの入れ物とか叩くものを用意するともっと楽しめたかなと思う。
- ・水の量を調整して、音階で遊べるので、自分も部分実習で取り入れてやってみたいと思った。

### ③ 2つの模擬保育実践を通しての考察

①②の2つの実践記録からは大きく2つのことが見えてくる。1つは、両実践とも予定調和的に活動が進むのではなく、活動中の体験から得た気づきを軸に、次の試行錯誤へと展開していく取り組みとなったこと。2つ目は、実践前と実践後に指導案をお互いに添削し合ったことにより、単に指導案がブラッシュアップされただけでなく、実践の省察が十分に行われたことである。この「試行錯誤」と「省察」は学びの根源的な要素である。

## (2) 音楽表現の具体的実践

幼児期における音楽表現活動は、歌を歌ったり楽器を演奏したりするだけでなく、生活の中にある様々な音に気付いたり、感じたりする活動、聞こえてくる音や音楽から感じたこと、思ったこと、考えたことなどを自分なりに音や言葉、身体などで表現する活動、簡単なリズム楽器を使って歌と合わせて楽しく音楽表現する活動など多種多様に渡って考えられる。

これらの音楽表現活動は、指導者自らの表現活動に対する意図や願いも当然あるが、基本的には子どもたち個々が感じたこと、思ったこと、考えたことなどを基本的に大事にして指導に当たりたい。

本実践研究では、様々な音楽表現活動において、今年度の授業で大切にして取り組んできた「音楽における身体表現」「生活の中にある音の気付きと表

現」「リズム楽器を使った音楽表現」の3点について具体的実践を記述し考察したい。

### ①音楽における身体表現

子どもたちは、音楽に合わせて手や足、身体を動かしたり、自分で考えて自由に振り付けをしたりすることが大変好きである。このように音楽に合わせて身体表現することは、ただ単に音楽に合わせて身体を動かすということだけではなく、指導者としては音楽的な意図性をもって指導したい。

身体表現によく似た身体反応という言葉があるが、身体反応は、音楽を聴いているときに、その音楽を聴きながら身体の一部が動くことであるのに対して、身体表現は、音楽に合わせて自らの考え、思い、願いなどを意図的に身体の動きによって表現しようとするものである。

しかしながら幼い子どもたちが、自らの考え、思い、願いなどをどこまで意図的に身体で表現できているかという大変難しいと思われる。したがって、私たち指導者は幼い子どもたちの様々な様相を捉えながら、子どもたち一人一人の身体表現の願いや思いを押し量って指導しなければならない。

そこで、本研究では身体表現に関連する様々な音楽的諸要素に着目し、より音楽的な身体表現が追求できるように具体的実践を試みた。その音楽的諸要素のうち主要な要素について記述したい。

### 【拍感】

「拍」は、音楽の流れの基盤となるものであり、一定の時間的間隔によって刻まれるものである。この「拍」と「リズム」の違いについて、指導者をめざす学生には「拍」は人間の脈拍のようなものであり、「リズム」は音と休みから構成されているものであると話している。このことは学生にとっては非常に分かりやすいようで多くの学生が理解した。この拍には強拍と弱拍があり、1小節の中での強拍と弱拍の構成によって拍子が確立される。一般的には、1小節の中で「強拍・弱拍」の構成が2拍子系であり、「強拍・弱拍・弱拍」の構成が3拍子系である。このことはその音楽の特徴や雰囲気を大きく左右する要素になる。

### 【フレーズ感】

フレーズは、音楽の小さなまとまりである。この音楽の小さなまとまりを感じ取りながら身体表現することは、音楽的感覚を身に付けさせる上で非常に大切なことである。具体的には、音楽に合わせて指導者が小さなまとまりごとに表現の仕方を変化させ、それを子どもたちに模倣させることから始める。最初は自由に身体表現させようとしても、子どもたちにとって何をどうしたらよいか全く分からず、途方に暮れてしまうことが多い。指導者は、子どもたちが身体表現している姿から、フレーズ感がよく感じることが出来る表現を見つけ、認め褒め、広げていくことが大切である。そして、子どもたちに指導者の表現の模倣をさせることによって、模倣する力や強調する力が身につくと思われる。

### 【リズム感】

リズムと拍の違いについては前述した通りである。このリズム感覚を養うために、特に音楽に合わせて手や足を使ったり、歩いたり走ったりジャンプしたりする動きや表現を繰り返し行った。特に手拍子、足拍子については、手と手を合わせるいわゆる手拍子だけではなく、身体の様々な場所を手で打ったり、足を鳴らしたりすることで音楽的なリズムのバリエーション、リズムパターンが生まれ、音楽的なおもしろさや楽しさが表現でき、可能性が無限大に広がる。

### 【強弱感】

音楽では、この強弱感やダイナミックスという要素は非常に大切で、もしこれらの要素がなかったら、平凡な味気のない音楽になってしまう。反対に、強弱やダイナミックスがよく表現された音楽は、たとえ手拍子だけであっても、素晴らしい音楽を創造することができる。したがって、身体表現でもこの強弱感を意識した表現を大切にしたい。

子どもたちに身体表現をさせるときには、特に上述した音楽的諸要素について指導者がよく考え意図的な指導をすることによって、豊かな感性と表現する力を身に付けさせていきたい。

②自然の中にある「音」の気付きと表現

子どもたちを取り巻く生活環境、自然の中には、様々な「音」がある。この様々な音に耳を傾けたり耳を澄ませたりして、自然の中にある音に気付いたり音を見つけたりする活動や、気付いたり見つけたりの音を表現する活動は、音を聴く力を育てるだけではなく、集中力や想像力をも育成することになる。

本学附属桐が丘幼稚園では、「人と自然とみんななかよし」を目標に、「土となかよし」「虫となかよし」「水となかよし」「草花となかよし」「風となかよし」の5つをテーマにして教育活動に取り組んでいる。

そこで、本学教育学部子ども教育学科1年生で、「保育内容（音楽表現）Ⅰ」の授業を受講している学生とともに、上述した中の「水」について想像できる様々な音を考えてみた。また、子どもたちが「水」をテーマにしたとき気付いたり見つけたたりすると予想される音を、擬音語や擬態語で表現し、その音を音楽表現するとしたらどのような楽器や音で音楽表現するかを考察してみた。

表1 「水」から想像する「もの」「音」「音楽表現」

もの	擬音・擬態	楽器・音
雲	モクモク、フワフワ プカプカ、モコモコ フワー、ポアポア ポコポコ、モアモア プアプア、モフモフ ユラユラ、サー、スー	大太鼓 ウッドブロック マリンバ フルート 黒板消し
雨	ザアザア、ゴーゴー ポツポツ、シトシト バーバー、ドードー バシャバシャバシャ チャブチャブ パラパラパラ ポツンポツン	箱に小豆 マラカス スズ、ギロ トライアングル 乳酸菌飲料の容器と小石 ゴマの袋 トタンに水
雪	シンシン、コンコン ポツポツ、パラパラ キュッキュッ、キシキシ サラサラ、フワフワ ザクッザクッ	スズ、シンバル マリンバ 紙コップを叩く トライアングル 野菜を切る 片栗粉

雷	ゴロゴロ、ピカピカ ガラガラ、ドッシャー ドッカーン、バリバリ ガッシャー ドーン、バーン ピッシャー ダダダダダ・・・	大太鼓、ドラム トライアングル 空き箱と石 シンバル 新聞紙を破る音 ガラスを割る音 煎餅を割る音 水風船を割る音
川	サラサラ、サー、ザー ジャブジャブ、ダーダー ゴーゴー、ドンブラコ ピチャピチャピチャ チョロチョロチョロ ザブザブザブ ザバーンザバーン	ハープ マラカス 空き箱と小豆 または小石 琴、三味線
海	ザブーンザブーン ザッザッザッ ザッバーンザッバーン パシャパシャパシャ プカプカ、ユラユラ サーサーサー、ザワザワ	空き箱・ザルと 小豆または小石 マラカス
雫	ポチャーン、ピチョ	鉄琴、木琴
水滴	ポトンポトン、ポツポツ ピチピチピチ ポチョンポチョン ポタポタ	ビニル袋の中の 水 ピアノ
水道 水遊び	ジャージャー ザーザー、ポチャポチャ チョロチョロ、バアー ポツンポツン、ダアー ポタポタ、ポツポツ バシャバシャ ピチャピチャ、ピチピチ	砂・小石の音 ビニルの袋に水 バケツ・桶に水

水から想像できるものは他にもたくさんあるが、子どもたちの身近にあるもの、比較的想像しやすいものについて、子どもたちが気付いたり見つけたたりすると予想できることをまとめてみた。

このような音に気付いたり見つけたたり、あるいは音楽表現したりする活動の中で大切にしたいことは、子どもたちはそれほど語彙力が豊富ではなく、前述したような擬音語・擬態語で言い表すことが非常に難しいということである。こういった場合には指導者は子どもたちが感じるままに傍で寄り添い、



子どもたち一人一人の気付いたり見つけたり感じたりしたそのままを受け入れ、共有してやるのが大切である。そして、擬音語や擬態語で表現できなくても、たとえば感じたことを図や記号などで表現してもよいことを伝え、その表現を褒めたり認めたりしていく必要がある。

さらに、気付いたり見つけたり感じたりした音を、音楽表現しようとするときには、指導者が子どもたちの心に寄り添って、一緒に音見つけをしていくということが指導のポイントであると思う。

現に学生とともに水に関係する「もの」からイメージできる擬音語・擬態語について、一応言葉として表現することはできたが、この擬音語・擬態語をどのような楽器や音を使って音楽表現するかということについては、感覚的なものもあって非常に難しく今後の課題である。

### ③リズム楽器を使った音楽表現

子どもたちが歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を演奏したりして、その心地よさを十分に味わったりすることは、音楽を表現する楽しさやおもしろさになり、音楽を親しむ態度を育てることになる。

したがって指導者は、子どもたちが音楽を聴いたり歌ったり、簡単なリズム楽器を演奏したりするような音楽活動を十分に経験させることを通して、音楽の楽しさやおもしろさを体感させていきたい。このことは、特に小学校低学年の音楽指導にもつながる。

そこで指導者は、基本的なリズムと楽器について意図的・段階的な指導構想をもち、子どもたちに無理なくリズム感を育成していくことができるように系統的・段階的指導に努めなければならない。

表2 リズム表現の基本的な指導段階表

	基本的なリズム	リズム楽器等
1	↓ ↓ ↓ V ↓ ↓ ↓ V ○○ ○V ○○ ○V タンタン タンV タンタン タンV 【具体的な曲名例】 じゃんけんぽん	手拍子 カスタネット
2	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ V ○○ ○○ ○○ ○V タンタン タンタン タンタン タンV	手拍子 カスタネット

3	【具体的な曲名例】 みんなであそぼう ↓ V ↓ V ↓ ↓ ↓ V ○V ○V ○○○V タンV タンV タンタン タンV 【具体的な曲名例】 しろくまの ジェンカ	手拍子 カスタネット
4	↓ ↓ ↓ V ♪ ♪ ↓ V タンタン タンV タタタ タンV 【具体的な曲名例】 ぶんぶんぶん	手拍子 タンブリン
5	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ Vと ↓ V V V ↓ V V V の組み合わせ ○○ ○○ ○○ ○Vと ○V VV ○V VV の組み合わせ タンタン タンタン タンタン タンVと タンV VV タンV VV の組み合わせ 【具体的な曲名例】 きらきらぼし	すずと トライアングル の組み合わせ
6	↓ V V ↓ V V ↓ ↓ ↓ ↓ V Vと ↓ V V ↓ V V ↓ V V ↓ V V の組み合わせ ○VV ○VV ○○○ ○VVと ○VV ○VV ○VV ○VV の組み合わせ タンVV タンVV タンタンタン タンVVと タンVV タンVV タンVV タンVV の組み合わせ 【具体的な曲名例】 とんくるりんぱんくるりん	タンブリン トライアングル
7	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ Vと ↓ V ↓ V ↓ ↓ ↓ V のリズム伴奏	カスタネット タンブリン すず

8	<p>○○ ○○ ○○ ○Vと ○V ○V ○○ ○V のリズム伴奏 タンタン タンタン タンVと タンV タンV タンタン タンV のリズム伴奏 【具体的な曲名例】 こいぬのマーチ</p>	
8	<p>V ↓ V ↓ V ↓ V ↓ と ↓ V ↓ V ↓ V ↓ V のリズム伴奏 V○ V○ V○ V○と ○V ○V ○V ○V のリズム伴奏 Vタン Vタン Vタン Vタンと タンV タンV タンV タンV のリズム伴奏 【具体的な曲名例】 この空とぼう</p>	カスタネット タンブリン
9	<p>V ↓ ↓ V ↓ ↓ V ↓ ↓ V ↓ ↓ と ↓ V V ↓ V V ↓ V V ↓ V V のリズム伴奏 V○○ V○○ V○○ V○○と ○VV ○VV ○VV○VV のリズム伴奏 Vタンタン Vタンタン VタンタンVタンタンと タンV V タンV V タンV VタンV V のリズム伴奏 【具体的な曲名例】 いるかはざんぶらこ</p>	カスタネット タンブリン
10	<p>v♪ ↓ v♪ ↓ v♪v♪ v♪ ↓ と ↓ V ↓ V ↓ ↓ ↓ V のリズム伴奏 vタン vタン vタvタ vタンと タンVタンVタンタンタンV のリズム伴奏 【具体的な曲名例】 山のポルカ</p>	カスタネット タンブリン

※○は4分音符、Vは4分休符を表す。また、vは8分休符を表す。

簡単なリズム楽器を使った音楽表現では、音楽に合わせて拍の流れにのってリズムを打つことが大切である。具体的な指導では、指導者は次のような指導の観点及び手順・段階が必要となる。音楽や拍の流れにのって、等速で手拍子を打つこと。休符（V）を意識して意図的に休みを表現すること。リズム唱（タンやタタ）でも表現できるようにすること。リズム伴奏では、他のリズムをよく聴きながらリズム打ちをすること。カスタネット、タンブリン、すず、トライアングルなどの簡単なリズム楽器の基本的な持ち方や奏法を確実に指導することなどである。

当然、これらの楽器には、その楽曲にあった持ち方や奏法があり、画一されるものではないが、指導者として基本的な知識や実践力は身に付けておきたい。具体的な実践の中では、タンブリンの枠の穴に親指を入れて演奏している例がいくつか見られた。タンブリンは、親指を鼓面に置いて演奏するように子どもたちに指導したい。そして、枠の金具のガチャガチャした音がいつも鳴っているということがないように、タンブリンを縦にして構えるのではなく、平らにして演奏することも心に留めて指導したい。さらに、5歳児から小学校低学年の子どもたちへのリズム楽器の指導については、楽器の音色や楽器の音量のバランスなどにも留意しながら指導したい。

リズム表現の指導をしていく際には、これらのことを踏まえつつ、指導者は前述したような基本的な指導段階を心に留めて指導していきたい。この段階的な指導をしていくことによって、子どもたちが楽しんで音楽活動をしていく中で、無理なくリズム表現の力を確実に付けていくことができると思う。

#### 4 まとめ

子どもたちが自分なりに、感じたことや考えたことを表現していくことを通して、豊かな感性や造形表現、音楽表現などの表現する力を養い、創造性を豊かにしていくこと。また、子どもたちが友達同士で造形表現したり音楽表現したりする過程を楽しみ、表現する喜びを味わうように指導していくことは非常に大切なことである。

今回の実践研究では、造形表現、音楽表現における具体的な指導事例について検証し、子どもたちが自分の心を開いて、素直に自己表現していくことが

できるように指導していくことこそ非常に大切であることが明らかになった。

さらに、簡単なリズム楽器を使った音楽表現では、具体的な学習ステップを踏んで、段階的に指導していくことの大切さを明らかにした。

本学で学んだ学生が、教育現場で子どもたち一人一人の感じたこと考えたことを大切にしながら、子どもたちとともに楽しく保育に関わってくれることを期待するとともに、筆者たちは、今後も領域「表現」における造形表現、音楽表現の具体的実践をし、検証を累積していきたい。

## 引用文献

- (1) 厚生労働省(2017). 保育所保育指針. フレーベル館. P10～12、P21～22、P29～30
- (2) 内閣府、文部科学省、厚生労働省(2017). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領. フレーベル館. P5～7、P19～20、P24～25、P31～32
- (3) 文部科学省(2017). 幼稚園教育要領. フレーベル館. P5～9、P20～21